

# 住民から信頼される公務員になるために

私が公務員としてのキャリアをスタートしてから約34年が経ちますが、公務員に求められる役割は時代とともに大きく変化してきたと感じています。地方分権に伴い、国と地方の役割分担が明確化され、地方自治体は自らの判断と責任において、多様化した現代社会のニーズに応えていくことが求められています。そこには、一定の法律の制限のもと、自治体をどう経営すれば、多くの住民の幸福を実現できるのか、という視点が欠かせません。

経営には正解がないと言われていています。私は現在、総務部長という職名を拝命し、職務に当たっていますが、時には難しい判断を求められることがあります。そこで、私自身が大切にしていることは、「何が正しいのか」を考え抜くことです。それには、江戸末期の儒学者である佐藤一斎先生の『言志四録』の言葉を拝借するならば「尊敬の念をもって誠実に尽くすこと、寛大な情をもつこと、正義を守ること、私心を棄て公明正大であること」が必要であると考えています。一度決めたことは、自らを律し、意思をもって行動で示す。信頼とはこのような積み重ねで築き上げていくものではないでしょうか。

## 住民のために全力で職務に励む覚悟を

地方自治体の職員について、みなさんは様々な印象をお持ちだと思います。もし、「公務員は毎日定時に帰れる」というような印象をお持ちなのであれば、実際はそうではありません。例えば、台風や地震等の災害が発生した際には、いつ何時であろうと現場や職場に駆けつけなければなりませんし、住民のみならずと一緒にイベントがあれば、定時以降に会議や打ち合わせを行うこともあります。住民福祉の向上のためには時に身を粉にして仕事をやり切る覚悟をもって働くことが求められます。

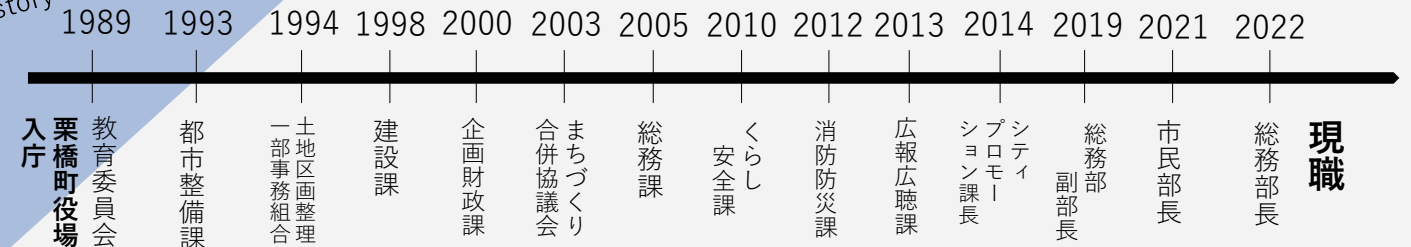
本市の職員は、プロ意識を持ち、市の発展のために懸命に働いています。限られた予算の中であっても、責任感を持って、それぞれの立場で各自ができることに全力を尽くしています。そのような中で、職員一人ひとりが、仕事とともに家族や趣味などプライベートな時間も充実できるよう、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた様々な取り組みを実施し、働きやすい職場環境づくりを進めています。その成果の一つとして、男性の育児休業取得率は令和2年から3年連続で100%を達成しています。

久喜市で働きたいと考えているみなさんには、ぜひ、自分自身の時間も大切にしながら、目標ややりがいをもって仕事に取組んでいただきたいです。私達とともに、久喜市の未来を創っていきましょう。

総務部 部長

1989年入庁(一般事務)

My History



## 性別に関係なく活躍できる場が広がる

市役所の仕事は、一般的によく知られている窓口での住民票発行のほか、税金の徴収や、高齢者、障がい者や子どもの福祉、地域振興から、道路の建設、上下水道の管理まで、多岐に渡ります。

障がい者福祉課は、どちらかと言えば男性職員が多い部署でしたが、今は女性職員の方が多数派となっています。相談業務を担う部署でもあるので、相談者によっては女性の方が話しやすいなど、女性職員が求められる場面が増えていきます。もちろん、男性の職員も熱心に業務に取り組んでいますので、男性・女性関係なく活躍している部署であると自負しています。

建設部門など男性職員が多数派の部署でも女性の技師が配属されるなど、女性職員の活躍の場は、ますます広がっています。今は、育児をしながら働き続けられる制度も整備され、女性が安心して働ける環境が整っているのも、久喜市役所がみなさんに誇れる部分ではないかと思えます。

多様性の時代と言われる今、様々な分野で活躍する女性が増えていることを実感しています。久喜市役所なら、ご自身の様々な可能性が見出せるのではないのでしょうか。

## 周囲の支援が自身の成長につながる

私は、もとは菖蒲町役場という小ぢんまりとした組織の中で仕事をしていましたが、合併時に本庁勤務となり、これまでとは桁違いの業務の多さと複雑さに戸惑うばかりで、ご迷惑をお掛けしたことも……。そのような中でも、合併により新たな同僚となった多くの方々に励まされ、支えていただいて、何とか困難な時期を乗り切ることができました。その後、いくつかの所属を経験し、その度に難しい局面もありましたが、合併がなければ出会うことがなかった多くの人とのつながりに支えられて、今に至っています。仕事をする上では、同僚、上司、また市民の皆様など、いろいろな立場の方との出会いがあります。人間関係がいつも上手くいくとは限りませんが、どんな場合でも自分を成長させるための経験と捉えて、つながりを大切にしてきました。特に、合併時の困難は、私を支えてくれた同僚がいたからこそ乗り越えられた貴重な経験であり、その後の私の仕事に対する向き合い方を形成しています。

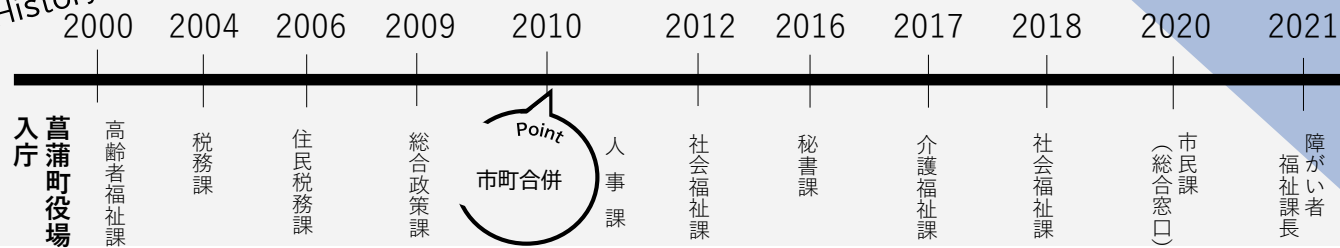
今は管理職となり、若手職員の指導や育成をする立場にありますが、私がそうしていただいたように、今度は私が若手のみなさんの成長を支え、後押ししていきたいと思っています。



障がい者福祉課 課長

2000年入庁(一般事務)

My History



現職

## 地方公務員だから追及できること

民間企業では、会社の利益や自分の成績を意識して働かなければならず、社会貢献ばかりを追求することは現実問題として難しいと思います。一方で公務員は「人の役に立つことを最優先にして働くことができる」ので、この点が一番の魅力でありやりがいであると感じます。特に市役所は、生活に最も近い存在ですから、このやりがいを直接肌で感じることができる職場だと思います。以前、プールを建替えた際に、子供たちから「ありがとう」と声をかけてもらい折り紙で作ったメダルをプレゼントしてもらいました。そして先日、そのプールの前を通ると子供たちのはしゃぐ声が聞こえてきました。技術者として、これまで積み上げてきた自身の技術力が誰かの役に立ち、それを身近で見守り続けることができるという点も、市役所勤務ならではのやりがいであり、技術者冥利に尽きることであり感じています。

今、私が行っているプロジェクトも、市民の皆様や学者の方と一緒に、これからの未来を考え、それを形にしていく真っ只中にあります。「次の世代にどんな未来をつないでいくか？」というテーマは、私たち人間が考える、言わば生き物としての本能や使命に近いことだと思います。一人の大人として、このような大切なテーマに仕事を通じて取り組んでいくということにやりがい以上のものを感じています。

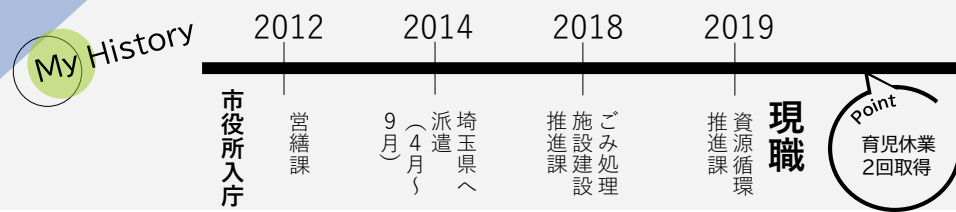
## 男性だって子育ても妥協したくない

我が家は妻と3歳・1歳の子供の4人家族で、今がまさに「仕事と家庭の両立が難しい時期」ではないかと思っています。係長として責任ある仕事を任される一方で、家では、食事の準備や後片付け、お風呂で水遊び、トイレの練習、休日は公園や買い物、お出かけと、忙しくも楽しい毎日を過ごしています。今、仕事と家庭を両立させていられるのは、子育てを温かく見守ってくれる環境が整っているからだと思っています。先日も、上の子が体調を崩した際、突発的な休暇となってしまいましたが、職場の皆さんには快く承諾いただきました。

先日、部下（男性）に子供が生まれたため、育児休業を取得しています。申請を出す際は、仕事のことを気にしていましたが、課長からは「おめでとう！フォローするから気にせず休んで」と声をかけていただき、不足した人員を確保するよう手続きも行っていただきました。私も、子供が生まれたときは育児休業を取得したのですが、小さな子供は本当に成長が早くて、毎日が「はじめて」の時間になり、それを家族で共有できたことは、大変幸せな事だと思っています。休業中の部下も、このかけがえのない貴重な時間を過ごしているのかなと思うと、私もすごくうれしい気持ちになりますし、改めて仕事と家庭の両立を頑張ろうという励みになりました。

資源循環推進課 係長

2012年入庁(建築技師)



# 仕事で大切にしていること

私は仕事をするうえで意識していることが大きく分けて2つあります。

1つ目は優先順位をつけて取り組むことです。今自分が抱えている仕事の中で、提出期限が近いものは何か、多くの人や部署が関係し影響が大きいものは何か、お客様にお伝えする情報に関して、条件を後回しにして話すことで期待を持たせすぎているか、結論から伝えることで端的に伝わっているかなど、すべてのものに対して優先順位を意識することを心がけています。そのことで、1日の仕事がスムーズにこなせるほか、課や市役所全体の月・年間のスケジュールリングも把握できていると感じています。

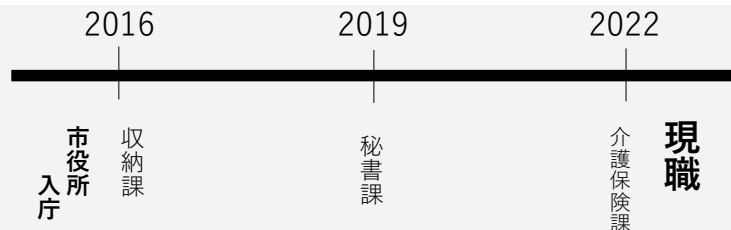
2つ目は何でも共有することです。上司や先輩、後輩誰に対しても、新たに得た仕事の情報や、自分の失敗等もすぐに伝えることを意識しています。共有することで、新しい情報は市民や事業所の方へ提供ができますし、失敗は周りの上司や同僚が助けてくれます。ですから共有して悪いことは一つもないと思っています。「できたことよりできなかったことの報告」「順調なことより不安材料のあることの報告」を迅速にすることを入庁してから現在まで心がけて続けています。

## 多種多様な仕事の経験が成長させてくれる

市役所の仕事は多種多様であり、そのなかの多くがつながっているということに入庁して8年目の今現在も圧倒されています。

入庁する前は、市役所の仕事というと窓口で住民票や戸籍を出してもらう、いわゆる市民課総合窓口の仕事のイメージしかありませんでした。しかし、この8年間に、部や課が変わるだけで転職したかのような、多種多様な仕事を経験させてもらっています。

その一つひとつの内容が深く、かつ広く他部署の業務につながっていると痛感する日々です。要介護認定の有無が補助タクシーの要件に関係してくる、納税状況が健康保険の限度額適用認定に関係してくる、お祭りやスポーツ大会など市主催のイベントや選挙・災害時には職員総動員で対応する、どの部署にいても予算について意識しながら仕事をする等、部署をまたいでつながる仕事が沢山あります。したがって、他部署の人との関わりを沢山もつことができるというメリットと、過去に配属されていた部署の知識を生かすことができるという強み、多くの広い知識を身につけなければならないという職責を働く前よりも感じています。



介護保険課 主事

2016年入庁(一般事務)